

「日本を元気にするハラール ビジネス」テーママに講演 食品産業文化振興会2月例会

食品産業文化振興
会2月例会は13日、
アキバプラザ(千代
田区神田)で、マレ
ーシア ハラル コ
ーポレーション・ア
クマル・アブ・ハッ
サン代表を迎えて
「日本を元気にする
ハラールビジネス」を
テーマに講演した。



アクマル・アブ・ハッサン代表

「日本経済を元気にし、
よりの成長するにはハラール認
証を獲得することが重要で

得ることで、マレーシア・
インドネシアはもとより、
世界の16億人といわれるイ

ある。ハラール
とは、イスラ
ム教の教えで
はあるが、根
本は安全・安
心の基準であ
り、情報開示
を目的として
いるもので、
ハラール認証を

スラム社会に通用できる大
きなビジネスが生まれる」
と熱く語った。

◆
昨年、マレーシアは世界
で9位になるほど観光を重
要産業として2500万人
の観光客を受け入れてい
る。日本を訪れる観光客は
わずか800万人、世界で
は31位となっているのは、
第一に食べ物の影響が大き
い。

イスラム教徒は、行きた
くても行けない国となっ
ている。日本人が長生きなの
は、日本食が最も健康的な
食事であること。またすば
らしい加工技術がある国で
あるのに、大変惜しい思い
である。

日本を見たとき①世界的
な競争力がない②過去20年
間のGDP成長率は15・7
%だけ③デフレが続いてい
る④人口が減っている⑤購
買力が低下している⑥日本
のマーケットは成熟してし
まった⑦TPPの問題があ
る⑧貿易黒字国から赤字国
となっている。明るいニュ
ースがないが、イスラムの
世界へ目を向けて、もっと
「日本食」や日本古来の文
化への魅力を発揮し、元気

な経済を取り戻すべきだ。
ハラール認証獲得には、大
きな労力が必要でコストも
大きいことは事実である
が、まずは、イスラム世界
へのテストマーケティング
をすることを第一に進め
る。親日家の多いマレーシ
アとの関係を保ち、売れる
商品を見極めてから、認証
獲得に動くことがよい方法
である。

今後ハラール化を薦める分
野は①健康食品(低糖・低
脂肪)②離乳食③飲料④発
酵食品⑤菓子⑥サプリメント
⑦化粧品⑧アメニティ
グッズ(シャンプー・歯磨
き)である。大いにイスラ
ム社会を勉強して大きなビ
ジネスへ発展させるべき
だ。
(中山清美)